

論文 / 著書情報
Article / Book Information

| | |
|-------------------|---|
| 題目(和文) | 開発援助におけるコミュニティインフラ整備過程のエンパワーメント 発現メカニズム |
| Title(English) | |
| 著者(和文) | 西宮宜昭 |
| Author(English) | Noriaki Nishimiya |
| 出典(和文) | 学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10805号, 授与年月日:2018年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:花岡 伸也,山口 しのぶ,阿部 直也,朝倉 康夫,屋井 鉄雄 |
| Citation(English) | Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10805号, Conferred date:2018/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,, |
| 学位種別(和文) | 博士論文 |
| Category(English) | Doctoral Thesis |
| 種別(和文) | 審査の要旨 |
| Type(English) | Exam Summary |

論文審査の要旨及び審査員

| 報告番号 | 甲第 | 号 | 学位申請者氏名 | 西宮 宜昭 | | |
|-------------|-----|--------|---------|-------|-------|----|
| | | 氏名 | 職名 | | | |
| 論文審査 審査員 | 主査 | 花岡 伸也 | 准教授 | 審査員 | 屋井 鉄雄 | 教授 |
| | 審査員 | 山口 しのぶ | 教授 | | | |
| | | 阿部 直也 | 准教授 | | | |
| | | 朝倉 康夫 | 教授 | | | |

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、「開発援助におけるコミュニティインフラ整備過程のエンパワーメント発現メカニズム」と題し、全9章で構成されている。

第1章(序論)では、本論文の背景と目的を説明している。開発援助のコミュニティインフラ整備プロジェクトにおいて、整備過程とエンパワーメント効果の発現の関係は十分に分析されていないことから、その発現メカニズムを明らかにし、汎用モデルを構築することを目的としている。

第2章(開発援助の現在までの潮流)では、近年の開発援助の潮流を概観し、経済開発効果だけでなく社会開発効果も主流化されたことにより、コミュニティ開発においてインフラの重要性が再認識され、参加型開発アプローチとエンパワーメントが重視されている状況をまとめている。

第3章(既往研究のレビュー)では、開発援助分野における社会開発効果に関する研究をレビューし、社会開発におけるエンパワーメントの位置づけ、およびエンパワーメントとソーシャルキャピタル・参加・コミュニティ開発との関係性をまとめ、コミュニティインフラ整備過程とエンパワーメント発現の関係についての研究が不十分なことを指摘している。

第4章(研究の方法)では、研究方法として、用語の定義、研究の枠組み、エンパワーメント発現メカニズムと汎用モデルの構築方法、対象事例プロジェクトの抽出とデータ収集について解説している。Alsopら(2006)が提案したモデルを拡張した概念図を用いて、メカニズムと汎用モデルを構築する方法を説明している。

第5章(研究対象プロジェクトの概観)では、対象事例とした59プロジェクトについて、モデルの入力条件に該当するコミュニティインフラ整備の投入内容と実践方法の概要を整理している。

第6章(エンパワーメント発現のメカニズムと単一事例モデルの構築)では、多数のインフラ整備をサブプロジェクトとして実施したタジキスタンの事例を選定し、インフラ整備過程から生み出されるエンパワーメントの発現メカニズムを明らかにして、単一事例によるモデルを構築している。

第7章(エンパワーメント発現事例の整理・分析と事例拡張モデル構築)では、対象事例プロジェクトの比較から、インフラ部門と非インフラ部門のエンパワーメント発現の差異を明らかにし、その要因を分析している。さらに、投入内容と実践方法の違いによるエンパワーメント発現の差異要因も考察することにより、第6章で構築した単一事例モデルを修正し、他のプロジェクトにも適用可能なエンパワーメント発現の事例拡張モデルを構築した上で、それを要約化した汎用モデルを提示している。汎用モデルでは、エンパワーメント発現メカニズムとして、投入段階、能力・制度・ソーシャルキャピタルの改善段階、エンパワーメント発現段階の3段階があり、ソーシャルキャピタルがエンパワーメント発現に果たす重要性と、発現段階における認識・態度と行動変容間、またこれら3段階間の相互作用の存在も明らかにしている。

第8章(インフラ整備の実施環境によるエンパワーメント発現の差)では、実施環境の違いとして紛争の影響の有無によるインフラ整備のエンパワーメント発現の差異を確認し、その要因を分析している。分析結果は汎用モデルの有効性を支持し、インフラ整備過程を通じたソーシャルキャピタルの改善が、エンパワーメント発現に果たす役割の重要性を再確認している。

第9章(結論)では、第6章から第8章までの分析結果を総括した上で、コミュニティインフラ整備プロジェクトにおける社会開発効果の評価方法と関連研究の進め方について提言している。

以上を要するに、本論文は、開発援助のインフラ整備過程におけるエンパワーメント発現メカニズムを明らかにし、他の開発援助プロジェクトへ適用可能なエンパワーメント発現の汎用モデルを構築しており、工学上貢献するところが大きい。したがって、博士(工学)の学位論文として十分価値のあるものと認められる。

注意:「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。